

特集 2

マニラ スポーツ・イベント・ルポ Smokey Mountain Baseball Project

ー 野球道を歩む子どもの背中を押す 日本の元プロ野球選手らが野球イベント開催 ー

7月6日、首都圏マカティ市のとある野球グラウンドでは、元プロ野球選手による野球クリニックが開催されました。

主催は一般社団法人海外野球振興協会 NB.ACADEMY で、公益社団法人青年会議所(JCI)及び元プロ野球選手である柴田章吾さんが代表を務める No border 社とともに、Smokey Mountain Baseball Project(SMBP)として開催されました。

* Smokey Mountain Baseball Project(SMBP)

もともと、JCI 東京と日本プロ野球名球会が 2012 年に立ち上げた事業で、スラム街に住む子どもたちに野球を教えて、高校や大学に通う為の奨学金の獲得に向けてサポートする活動。22 年より No border 社及び海外野球振興協会がその事業を継承。これまで 101 人の SMBP 卒業生が奨学金をもらい、進学している。

日本プロ野球界でも名高いアレックス・ラミレスさん、元読売ジャイアンツ柴田さん、元横浜 DeNA ベイスターズ高森勇旗さんと松下一郎さん、元埼玉西武ライオンズ小川龍也さん、社会人野球代表の佐藤竜彦さんらをはじめ日本からボランティア、そしてマニラ市ト

ンド地区の野球クラブとタギング市の2チームの子どもたち約100人が参加しました。

冒頭、ラミレスさんが「できるだけたくさんのことを学ぶなかでも、楽しみながらプレーしよう」と開会を宣言。またトンド地区の野球クラブの監督であるマニーさんから「日本の方々へ感謝を忘れるな」と心温まる言葉が子どもたちに伝えられました。



子供たちにバッティングを指導するラミレスさん

野球クリニックでは、日本の選手ら5人が各グループに分かれて、バッティングや捕球、投げ方などを教えていました。子どもたちは選手を囲みながら、真剣な眼差しで話を聞いていました。またフィリピンの子どもたちの人懐っこさからなのか、高森さんのグループでは、彼のあだ名「モリー。モリー」と掛け声で盛り上がる光景も見られて、教える側も教えられる側も楽しむ姿がみられました。



イベントに参加していたマークくんは「いろんなことを学べた」と満足げ。娘さんがイベントに参加しているという父親のトトさんも「楽しそうにプレーしている。将来、彼女が成功することを祈りたい」と話してくれました。



真剣に松下さんの指導に聴き入る子供たち

関係者によると、イベントを始めた当初はトンド地区の5000世帯で大学に行ける子どもが1人だったそうです。活動を続ける毎に、野球クラブが増えていき、奨学金取得者も増えていったとのこと。編集員自身も、国際協力機構や外務省をはじめ、いろいろな方面で、フィリピンに援助の手を差し伸べる日本に生まれたことを、誇らしく感じました。



最後に、イベントを取り纏めた柴田さんにお話をお伺いしました。「去年は子供たちの数を制限せず、たくさんの子に参加してもらえるように開催しました。それも良いのですが、今年は、より手厚い

指導をすることを目的に、特にスラム在住の子どもたちに絞って、およそ 100 人の参加者にて開催しました」。

「奨学金を取得できる子どもは増えてきました。次に目指す先として、野球版のマニー・パッキャオのような、スター選手を輩出できたら」と子どもたちの希望、憧れとなる存在を作ることを思い描いているようでした。

—野球教室取材して—

世界野球ソフトボール連盟(WBSC)が発表するナショナルチームのランキングでは、フィリピンの男子野球チームは、現在、アジアで5位。1位は日本で、韓国、台湾、中国と続く。昨年は中国相手に国際大会で初めて勝利するなど、成長を続けている。今後もフィリピンで野球が盛んになり、テレビで見られる日も遠くないかもしれません。野球好きの一人として、編集委員もこのイベントの行く末とフィリピンの野球を追いかけていきたいと思います。

(編集委員 N)



参加した約 100 人の子供たち